

○仙台・宮城北部森林管理署の「採材現地検討会」に出席しました。

青森事務所では毎年、森林管理署等の採材検討会に参加し、技術指導や情報提供などを行うことで、国有林材を円滑・効果的に活用するよう努めています。令和5年9月13日（水）に宮城県黒川郡大和町の三峯山国有林で開催された「令和5年度 採材現地検討会」に、青森事務所から2名出席してきました。

当日は曇りから雨という天候の中ではありませんでしたが、林業関係団体や県の担当者、署管内の林業事業体など70名を超える参加を得て開催されました。宮城北部森林管理署長の挨拶に続いて、青森事務所からは需要動向についての説明とともに、スギ等針葉樹の4m採材の推進や適切な仕訳の徹底、広葉樹の定尺にこだわらない一般材の採材や作業日報の電子管理によってボトルネックの解消を行う「生産性向上の取組」等に関して協力をお願いし、採材の検討に移りました。

事前に試供木として準備したカラマツ3本について署から採材方法の説明があり、その後、参加者全員で実際に試供木を確認しながら検討を行いました。参加者間での意見交換の後、実際に造材を行い、丸太になった状態での曲がり具合や4mでの採材の可否等について宮城県森林組合連合会、ノースジャパン素材流通協同組合より解説がありました。また、広葉樹の試供木も8本用意され、宮城県森林組合連合会より各試供木の採材についての解説、採材時の留意点等の説明がありました。実際の丸太を見ながらの曲がり具合確認による目合わせ、様々な広葉樹を前にした解説等、現地での検討会ならではの取組により理解が深まりました。最後に青森事務所から、採材検討の講評と労働安全等についてお話させていただき、仙台森林管理署長からの閉会のことばをもって採材検討会を終了しました。

青森事務所では今後も採材検討会や労働災害防止協議会へ積極的に参加し、国有林材の有効な利用と労働安全に貢献して参りたいと考えています。



(カラマツの採材検討)



(広葉樹の採材解説)